

3月15日(土) 第71回育てる会

縄文 縄文 縄文 縄文 縄文 縄文 縄文 縄文 縄文 縄文

縄文食

塾

土器作り

ニュース

みんなで作ろう！
しまやけべいせき
下宅部遺跡はっけんのもり

第80号【'08-2月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成20年2月12日



縄文食作りの様子 (今回は室内で行います)



土器作りの様子

平成20年3月15日(土)の第71回育てる会は「縄文体験塾」です。小学校4年生以上の子供達と、午前中は縄文食作り、その縄文食でお昼をとり、午後は縄文土器作りをします。
縄文食は、シカ・イノシシの肉を黒曜石でスライスし、石板プレートで塩焼きにします。これに、キノコとヤマイモ・鶏肉の縄文スープが付く豪華版です。
土器作りは、下宅部遺跡から掘り出した粘土を使い、下宅部遺跡出土の土器をモデルにして行います。現在、その準備として、土器部会のメンバーが粘土からゴミや小石を取り除いて練る作業をしています。人手が足りなく

て困っています。まだまだ粘土が足りないのです。2月24日と3月2日の日曜日にも、午後1時30分から準備作業を行います。会員の方は是非とも参加してください。
また、当日も子供達をサポートするスタッフが多数必要となりますので、お集まりください。
開催日 平成20年3月15日(土)
時間 午前10時から午後4頃まで
場所 東村山ふるさと歴史館
対象 小学校4年生以上
人数 20人(午前・午後のみ可)
参加費 無料
問い合わせ 042-396-3800

《特別寄稿》

研修見学会に参加して

亀井和美

「栃木の県博で骨のテーマ展をしているようですが行きませんか？」という石川さんからの誘いに乗って、今回の研修旅行に一般参加として一緒にさせていただきました。

下宅部遺跡では獣骨の担当だったために、ご親切にも誘ってくださいたのですが、まさか原稿依頼というおみやげまで用意されているとは思ってもいませんでした。

会員でもないのに遠くまでのバス研修につまぐ溶け込めるのかなあ、という一抹の不安を抱きつつ市民センターからバスに乗りこみました。個性豊かな方々の和気あいあいの雰囲気ですっかり魅了されて、ほんとうに楽しい一日を過ごすことができました。みなさん、ありがとうございました。

さて、私たちが先ず訪れたのは根古谷台遺跡。

晴れ上がった冬空の下、秀麗な男体山や大真名子山、名前は裏腹に荒々しい山容の女峰山などの日光の山々が望める緩やかな台地上に遺跡はありまし



大塚さん（左端）から遺跡の概要を聞く

た。聞けば遠くに富士山も望めるこのことです。

トイレの水も凍る冷え込みの中、資料館で遺跡概略の説明を受けた後に復元された縄文前期の墓や住居跡などを案内してもらいました。先ず目に付くのが巨大な「長方形大型建物」。その大きさに圧倒されます。三内丸山遺跡

が発掘されるまでは、この建物が縄文時代の遺跡の中では一番大きかったのだとか。

この大型住居跡にしろ、復元するにあたっての様々な行錯誤や困難のエピソードなど、遺跡公園の計画、準備、整備、維持管理などに関わってこられた方ならではのお話なども交えて丁寧に説明してくださいました。宇都宮市教育委員会の

大塚さんに車窓から手を振りながら次に向かったのは宇都宮城址公園。

平安時代後期に作られた城が、様々な変遷を経て、江戸時代には日光社参時の將軍の御成御殿となったそう。その一部が復元されていた。それは、楽しみなのはお昼ご飯なのである。

「農家レストランなごみ」は、宇都宮郊外のまさに農村然とした所にあつた。建物も農家そのもの。窓の外には唐箕やブリキでできた玄米貯蔵タンクなどもある。まるで我が実家に来たみたいなお光景がひろがる。

そこで栃木の郷土食「しもつかれ」などとともに、野菜をメインにしたいかにも「体に良さそうな料理」を堪能した我らは、午後の部 栃木県立博物館



鹿沼市郷土資料展示室の屋台

館と鹿沼市郷土資料展示室へと向かいました。

私にとっては本日のメインイベントが「あつまれ！ホネの動物たち」という県博のテーマ展でしたが、やはり関心は遺跡の発掘調査から考察出来る人間と動物との関係、骨格器や出土した動物の骨などに偏ってしまいます。県博の展示もそんな視点から見ました。もう少し時間の余裕があれば他の展示もじっくりと見られたのですが、ちよつと残念でした。

研修の最後に訪れた鹿沼市の郷土資料館。今回の研修で私が一番印象に残った

のは鹿沼市の資料館です。

下宅部遺跡と共通する水場遺構が発見された「明神前遺跡」の遺物の数々には非常に興味をそそられ、また、地場産業の麻に関する展示などにも感心しましたが、地元の日光材をふんだんに使った杉材の芳しい香りにつまれを収蔵庫に鎮座する、華麗な彫刻を施した彩色屋台と白木の屋台。これには驚きました。

精巧で華麗な木工技術の粋を集めたような屋台の彫刻。江戸時代から綿々と受け継がれ、今も現役で祭りの主役になっている屋台。

この屋台が現存しているということ、は、背後には山林、林業、製材、木工、祭りの担い手…、様々な人々の営みがあり、現在もそれが機能しているということ、これはすごいことだと思えました。

鹿沼市の資料館で解説をしてくださった方は「東村山市の歴史館には及びもしない粗末な資料館ですが…」と前置きをしつつ展示されている屋台の説明をしてくださりましたが、しかしその発せられることばの端々には故郷鹿沼を心から愛し誇りに思う気概が溢れているように私には見えました。

ああ、こういふことなんだなあ、こいつ風に故郷を誇りに思う人々の志

が地域を支えているんだなあ…ということが実感されるような、朴訥ながらも味のある本当に良い解説だと思いました。

根古谷台遺跡で解説してくださった大塚さんも、自分の生まれ育った場所にこんなすごい遺跡があり、その調査に参加することが出来てほんとうに嬉

栃木県のミュージアム巡り

鹿村光俊

今回は日光連山を間近に見る宇都宮市と鹿沼市のミュージアム3館を訪ねる研修見学会。厳しい寒さの中でしたが各ミュージアムがそれぞれの特徴を出し、楽しく学ぶことが出来ました。

最初に訪れたのは「つつのみや遺跡の広場」(史跡根古谷台遺跡)。広大な台地に縄文時代前期の大規模な集落を復元した園内を、教育委員会の方の解説付きで見学。広場には300を超える墓壙を囲むように多数の住居跡が発見され、中央には200畳もある巨大な建物が復元されてある。

快晴の台地上からは間近に男体山を

しかつたと仰っていました。

そついう人々の思いが形を成し、地域を支えていく原動力のひとつになっていくのだなあと改めて思った次第です。

今回、部外者ながらも育てる会の研修に参加させていただきましたが、皆さんのことばの端々に「わが町東村山」

はじめ日光連山が眺められ、数千年前の縄文人はどんな想いで、この風景の中で生きていたのでしょうか。

資料館の中では子供たちがボランティアの方々の指導を受けながら、巣箱作りに取り組んでいました。下宅部の「たいけん館」が完成したら、こんな情景が生まれたら良いな…なんて想像してしまいました。

次に宇都宮の中心地に完成したばかりの「宇都宮城址公園」に立ち寄った後、楽しみな昼食！事務局がネットで探してくれた、郊外の農家レストラン「やわらぎ」で郷土料理にまつみ。

という思いを感じ、この町に関わるようになってからの取り組み方は様々なでしょうが、わが故郷を誇りに思う気持ちという共通項でつながる暖かくもゆるい確かな関係に触れて、本当に良かったと思いました。



復元住居と土坑群

(メニューは紙面の都合でカット?) お腹を満たした後は「栃木県立博物館」から。美しく整備された広い公園の中にある瀟洒な博物館ではへ集ま

れ！ホネの動物たち」というテーマで小さな両性爬虫類から、大きな恐竜までたくさん脊椎動物のホネが陳列され子供たちの人気の的。もちろん栃木の歴史と文化も大きなブースに整然と展示され、多数の解説員の皆さんが

活躍されていました。

最後は「鹿沼市文化活動交流館」で重要無形民族文化・鹿沼今宮神社の屋台行事に繰り出す、絢爛豪華なへ彫刻屋台が迎えてくれました。また考古民俗資料室では伝統作物へ大麻

について、ボランティアの方から詳しく解説していただきました。

今回の研修は感想文を書くにはスペースが足りないほど盛り沢山のテーマがあり、幸せな一日でした。

はっけんのもりの植物⑨ 「ヒガンバナ」

石橋 康夫

この寒い季節に「ヒガンバナ」のことを書くのはおかしいと言われるかも知れない。しかし、私は必ずしもそうではないと思っている。というのは、ご存知のとおり花の時には葉がなく、そのにぎやかな花だけである。「ご覧の写真の葉だけが秋末から春までの「ヒガンバナ」の姿である。それが「親知らず、子知らず」などと言われるゆえんである。

「曼珠沙華」「地獄花」「極楽花」など沢山の異名をもつこの赤く目立つ花は、縄文の昔、下宅部にあったかどうかは不明であるが、中国原産で、古い時代の日本に渡来したものと考えられている。

「はっけんのもり」には「ヒガンバナ」は植えなかった。しかし、何かに紛れ



ヒガンバナの葉

て来て、昨秋一輪だけ「コナラ」の下、芝生の中に咲いた。除草の約束ごとでは抜かれる運命であるが、今のところは健在である。何とか生かしておいてやりたいと思っている。

炭焼き体験は2月17日

前号でお知らせした「ふれ炭会」との交流会、炭焼き体験は2月17日の日曜日です。当日は、午前9時に西武園駅に集合してください。そこから徒歩で「狭山丘陵いきものふれあいの里センター」へ向かいます。集合に遅れた場合は、直接ふれあいの里センター(04-29939-9412)へ来てください。

育てる会

今後の予定

- 2月17日(日) 午前9時から
第70回育てる会「炭焼き体験」
(いきものふれあいの里センター)
- 2月23日(土) 午前9時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 2月24日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 2月26日(火) 午後1時30分から
縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 3月2日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 3月4日(火) 午後1時30分から
縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 3月5日(水) 午後7時30分から
定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 3月8日(土) 午前9時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 3月11日(火) 午後1時30分から
ニュース印刷発行(ふるさと歴史館)
- 3月15日(土) 午前10時から
第71回育てる会「縄文体験塾」
(ふるさと歴史館)
- 3月22日(土) 午前9時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 3月23日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)

育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

- 正会員：会費年間1200円
- 通信会員：会費80円切手12枚
- お申し込み：ふるさと歴史館
- ☎042(3996)3800まで